



投資環境

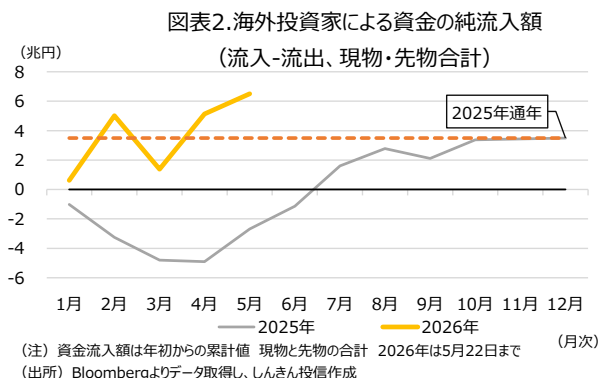
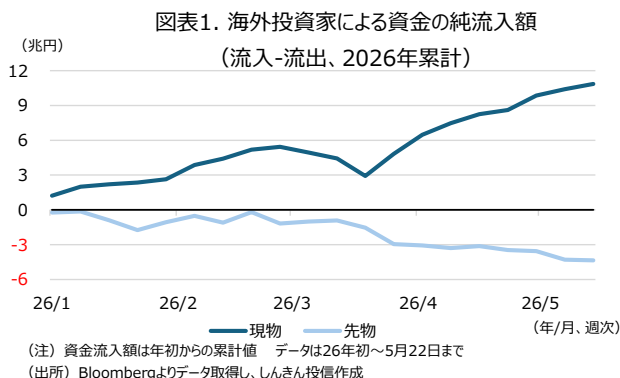
2026年6月4日

際立つ日経平均株価の上昇、今後の展開は

海外投資家の資金流入が追い風に

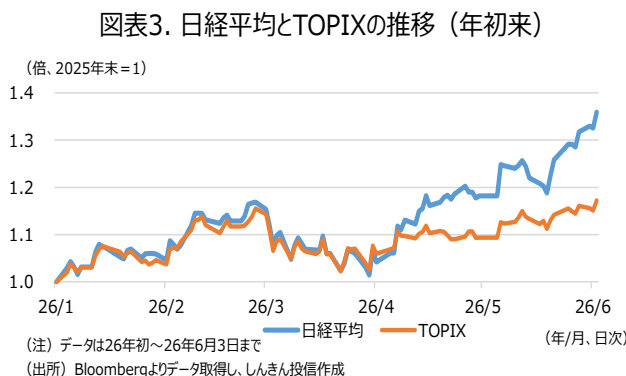
最近の国内株式市場は、日経平均株価が連日史上最高値を更新しているほか、6月3日にはTOPIXがはじめて一時4,000ポイントの大台を突破するなど、堅調な動きが続いています。米国とイランが紛争終結に向けた協議を続けていることや、1～3月期の国内外の企業決算が堅調な内容になったことなどを背景に、海外投資家からの資金流入が継続していることが日本株の追い風となっています。

海外投資家による純資金流入額(流入-流出)は、年初来では、現物と先物の合計で約6.5兆円に達しており、すでに昨年1年間の合計(約3.5兆円)を大きく上回るペースで推移しています(図表1、2)。仮に現在のペースが維持された場合、年間の純流入額は前年比で4倍以上に達する計算となります。とくに4月以降、現物と先物の合計で累計5兆円規模の大規模な流入となっており、最近の株価上昇の要因になっているとみられます。



日経平均の上昇際立つ

直近の株式市場では、日経平均が年初来で1.3倍以上の上昇を記録し、TOPIXの同1.15倍程度の上昇と比較して、日経平均の上昇が際立っています(図表3)。NT倍率(日経平均株価÷TOPIX)は、最近急激に上昇し、過去最高水準となっています(図表4)。なぜ日経平均の上昇ペースが加速しているのでしょうか?



その背景には、日経平均への影響度が高い、AI半導体関連株が大きく上昇していることが挙げられます。



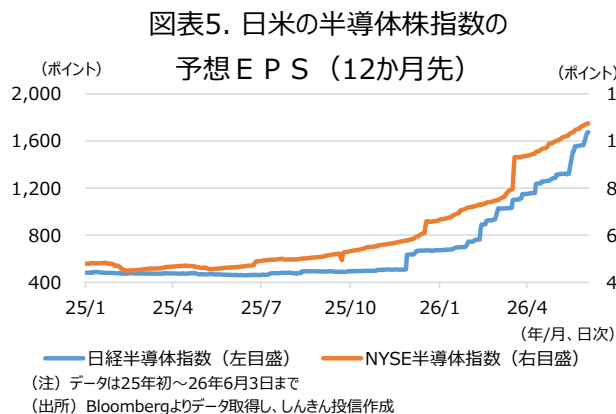
しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号

Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

AIの普及や進化により、メモリーなどの半導体需要が急拡大しており、国内外の半導体企業の業績が拡大しています。また、当面半導体需要の伸びが見込まれるため、今後の企業業績を示す予想1株当たり利益（EPS）は拡大する見込みです（図表5）。

加えて、米新興AI企業のオープンAIが上場の準備をしているとの報道を受けて、同社に出資するソフトバンクグループの投資利益が拡大するとの期待から同社の株価が急上昇していることも、最近の日経平均の押し上げ要因となっています（図表6）。



□ 今後の注目点

今後は、米国とイランの終戦に向けた協議の行方や日米の金融政策、スペースXなどの新興企業の大型上場が注目イベントとなりそうです。

中東情勢については、5月末に米国とイランが停戦を60日延長し、最初の30日の間にホルムズ海峡の機雷を掃海するという合意案が報じられたものの、その後イランメディアから、イランが米国との交渉を少なくとも数日ほど中断していると報道されるなど、交渉が進展するかは不透明な状況です。市場では、交渉進展への期待が高まっていますが、交渉が難航すると、投資家心理が悪化し、株価の調整を招く恐れがあります。他方、紛争終結で合意に至った場合、一段と株価が上昇することが期待されます。

6月中旬に予定されている日米の金融政策会合も注目です。日銀は、6月15、16日の会合で0.25%の利上げを決める可能性があります。日銀が同会合での利上げを決めるだけでなく、その後の記者会見で植田総裁が早期の追加利上げを示唆した場合、株価を下押しする可能性があります。6月16、17日の米連邦公開市場委員会（FOMC）は、ウォーシュ新議長就任後初めての会合となります。トランプ大統領から利下げ圧力を受ける一方で、理事時代はインフレ抑制を重視し、引き締め的な金融政策を志向していた同氏がどう議論をまとめるかが焦点です。仮に、政策金利が据え置かれたとしても、議長が利下げを主張して反対票を投じるような異例の事態となった場合、今後の金融政策の不透明感が高まる可能性があります。

米国の大型上場も注目材料です。6月12日にスペースXが上場する見込みであるほか、秋には新興AI企業のオープンAI、アンソロピックが上場を計画していると報じられています。上述したように、オープンAIが上場を計画しているとの報道をきっかけにソフトバンクグループの株価が上昇するなど、大型上場に関する報道は、現在は日本株の追い風となっています。上場後にこれらの企業の株価が上昇すると、国内のAI半導体関連株の一段の押し上げ要因となることが期待できます。他方、大型上場が一服すると、「材料出尽くし」による利益確定売りが広がり、国内のAI半導体株は上値の重い動きとなる展開も想定されます。

(ストラテジスト 澤村一樹)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号

Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会

〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www. skam. co. jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。